



巻頭言 3月定例会を振り返る

▼新年度予算の概要

3月定例会では平成31年度の予算案を議論しました。予算総額は約411億円。昨年度より約9億円増え、6年連続で400億円越えの大型予算です。約411億円使う（支出）ということは、それだけの財源（収入）があるということ。では一体411億円はどうやって確保するのでしょうか。

- 【歳入】 ※（ ）の％は全体に対する割合
- ・市税 約117億（28.5％）市への税金。
 - ・国からの交付税 約102億円（24.8％）。国への税金を地方自治体に配分。
 - ・国や県からの支出金 約64億（15.5％）。使い道が特定されています。
 - ・市債 約56億（13.6％）市の借金。
 - ・繰入金 約19億円（4.6％）基金（＝家庭で言えば貯蓄）の取り崩し。
 - ・その他 約53億円（13.0％）

国に頼らない市独自のお金（自主財源）は主に市税。これが3割を切ります。これでは到底やっていけないので、国や県から配分される分が約4割。さらに市債を発行しての借金や基金の取り崩しで財源を確保します。これが安曇野市のお金の入り方です。

では次にこのお金を何に使うのか。（＝歳出）

【歳出】

ハード事業（建設事業や土木事業）

- ・小学校の冷房設備整備 約9億3600万円
 昨年の猛暑を受けて、市内小学校の普通教室にエアコンが設置。
- ・総合体育館建設関連 約7億2300万円
 総事業費上限38億円でしたが、消費税値上げで6500万円増に。完成は2021年10月予定。

- ・新ごみ焼却施設整備 14億1300万円
 穂高広域施設組合への負担金
- ・あづみ野産業団地の拡張 約3100万円
 アルプス大橋そばの産業団地を拡張し、企業を呼び込もうというもの。

次にソフト事業。（千円未満は切り捨て）

- ・テレワークセンター整備 1095万円
 テレワークとはICTを活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。



- ・自転車活用推進事業 417万円
 宮澤市長の2年前の市長選の公約でした。自転車を活用したまちづくりに向けて、まず



みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政が市民にとって身近なものになるように活動報告をお届けします。市政との虹（＝Rainbow レインボウ）の架け橋として頑張ります。望三郎の活動は市議ブログやフェイスブックでもどうぞ。→「増田望三郎」で検索。

市民への機運を高めます。

・観光振興ビジョンの見直し・地域おこし協力隊の活用 329万円

昨年9月の一般質問で市の観光計画の見直しを提案しましたが、それが実施されます。観光振興の人材として地域おこし協力隊も募集しています。

・産婦健康診査 643万円

産後ママの心身の状態を把握する健康診査を行い、産後うつとの早期発見と支援を行う。

▼新年度予算案には反対

私は総合体育館建設計画が後年度に過度な負担を残す、また市民がそもそも本当に必要か

疑念があるので、新年度予算に反対しました。結果は賛成多数で採択されました。

安曇野まちづくりトークのご案内

車座で市民のみなさんと議員がより近く、安曇野のまちづくりを話し合う場を作っています。参加議員は望三郎と小林純子議員の2名の予定です。

今回は両議員が起こしていた公金支出金返金請求の住民訴訟の判決が確定したので、その説明を行います。ぜひご参加ください。

♪日時：4月20日（土）pm2:00～4:00

♪場所：穂高会館



サポーターからの応援メッセージその20

なかたかつこ

中田勝子さん（三郷小倉、健康体操指導36年）

望さんとは私どもの田畑を耕作して頂いているというご縁が今年で10年を迎えました。この田畑は自然環境を大切に考えながら仲間づくりに取り組んでいる若い皆さんや支援者たちに『共同耕作の場』とされ、活用が継続されています。議員になれる前からリーダーとして実行力ある望さんです。

私は小倉に嫁ぎ53年になります。昔の安曇野小倉は大変良いところでした。子どもたちの笑い声は響き、室山にはキジが「ケーン、ケーン！」と鳴く声が心を和ませ、老人たちは隣近所でお茶飲みをして生活を楽しみ、互いに励まし合っていた姿が思い出されます。又、お味噌炊き、野沢菜漬け、収穫祝い等、隣同士が《結っこ*》でやっていました。これが当たり前のことだったのです…。現在はどうでしょう？ 少子化、高齢化、核家族、空き家等々、以前では考えられなかった難問が山積されています。

このような今こそ、望さんの力が必要なのです。子供たちの声、若者の声、高齢者の声等、それぞれの声を拾い集めてください。又、本音を語れる場を広げてください。皆の声を大切にし、地域活性化につなげてください。「意志あるところに道は拓ける」の諺を信じます。最後に良縁と好機会は自然にやってくるのを気長に待つのが良いと言われていますが、正しくやってきました。

※結っこ…集落の共同作業のこと

3月定例会の一般質問

《質問》子どもたちが輝く 充実した体験と学びの舞台安曇野を打ち出す

【解説】

10年後の行く末が見通せない激変する現代社会において、子供たちには、時代に翻弄されることなく未来を切り拓く力をつけてほしいと願っています。この力は受け身の姿勢や指示されて身につくものではなく、子供たちが主体的、自発的に学ぶ中でこそ育まれます。

多少の困難さや不自由な環境でも子供たち自身がどうすればいいかを考え、決定し、行動する。失敗しても目の前の結果にこだわらず、さらに考え工夫してみる。また、制限や指示されることの少ない環境で、自分の興味関心あるものや実物に向き合い取り組んでみる。

今回の一般質問では、こういった充実した体験と学びの機会を市内外の子どもたちに用意し、安曇野が子どもたちが輝く舞台、心のふるさとになる、そんなブランディングとまちづくりを提案しました。

望市議 子供たちが未来を切り拓く力をつけるために、子供たち自らの思考と行動が求められる充実した体験と学びの機会をつくることを提案する。

市長 幼児期に自然保育を通して培った子供の主体的な学びの基礎を、小・中学校でさらに伸ばしていく。たくましい安曇野の子供を育ててほしいと考えているが、子どもたちは無菌状態にあるのではないかな。事故を起こさないように、責任を問われないようにという雰囲気があるし、保護者も行政・学校の責任だとして自己責任が回避されている。安曇野の豊かな自然を生かすには学校や行政だけで

なく、親としての責任、地域としての責任を、お互いに分かち合わなければならない。

教育長 子供たちの様々な興味、関心に応え、一人一人の個性を一層伸ばすことのできる多様な学びの場を広げていくことが必要である。

望市議 子供たちのそれぞれの興味や関心に応じた多様で充実した体験の場を学外においてもっと進めていくべきではないか。

教育長 学校外の体験や学びの場というのは、使っていないだけでいっぱいあると捉え直すべき。子供たちのために門戸を開いてくれるところがあれば積極的に発掘する。それが多様な学びの環境を整えるには必要である。

望市議 市外、県外、海外の子供たちに向けて、安曇野はワクワクドキドキの体験ができる子供たちの舞台だよと呼びかけたい。農家民宿を友好都市の家族、ふるさと寄附の返礼品、インバウンドなどで多様に活用できないか。

市長 特に子供さんたちに安曇野市に来ていただいて、そして、安曇野市ならではの魅力を丸ごと体験していただきたい。学校で学んだことよりも、自ら体で覚えたことのほうが恐らく将来忘れない。それは社会に出た場合に力になっていく。幅広い人間に育つことを願う。



農林部長 様々な受け入れの形を模索し、広がりのある事業としていけるよう、農家民宿

協議会に働きかける。

望市議 日本中、世界中から子供たちがやってくる。既存の農家民宿に加えて、国の財源も活用したもう一つの新たなチャレンジングな農村農業体験の事業展開を提案する。体験型の合宿所運営とソフトである体験企画をつくる事業者を公募し、市もしっかりと加わって、ビジネス感覚を持った地域おこし協力隊を入れ、官民連携の拠点運営へ事業展開していけないか。

市長 施設の整備、事業者による新たな経営形態、ビジネスの創出に当たって国の交付金や補助金など、利活用できるものがあれば精査し、関係部署で連携をし、研究する。

新たな議員ネットワークの構築に向けて動きます

4月は統一地方選が行われています。この中信地区にも志ある新人議員や若手議員が当選することでしょう。これを契機に新たな議員間ネットワークを構築したいと考えています。

①政治塾第2期スタート

5月後半から、新人議員や出馬意欲ある市民と共に地方政治を学ぶ政治塾を始めます。

②中信地区の若手議員ネットワークの構築

当一地方選後に志ある若手議員のネットワークを作ります。議員同士の連携を計りながら、トークイベントを開催するなど新しい風を吹かせます。

③自然保育推進の議員連盟設立

県内各自治体の議員とともに、自然保育の更なる推進を目指します。

新しい試み、チャレンジングな試みをすべく、行動を加速していきたいと思っています。

